

業務紹介 パンフレット (技術専門職員)



独立行政法人 家畜改良センター

「日本の畜産 改良と技術で育てます」

家畜改良センターは、畜産の発展と国民の豊かな食生活に貢献することを目的とした、1本所10牧場1支場からなる全国組織の独立行政法人です。



NLBC

センターの業務について

「小さなタネから大きなウシまで」
家畜改良センターの業務は多岐にわたります。

■ 家畜の改良増殖の推進

- ・畜産物の需要の変化に応じた優良な種畜・種きん等の生産・供給
- ・遺伝的能力評価の実施
- ・種畜検査の実施
- ・家畜の遺伝資源の保存



宮崎牧場で造成したデュロック種系統豚「ユメサクラエース」



新冠牧場で生産した種雄牛「NLBC バルサバベツジ」

■ 飼料作物種苗の生産・供給と検査

- ・日本の多様な気候に適した飼料作物種子及び種苗の生産・供給
- ・国際的な種子品種証明制度に基づく飼料作物種子の検査・証明



岡崎牧場で作出した
「岡崎おうはん」



鳥取牧場で生産した種雄牛
「光平栄」

■ 畜産新技術の開発・実用化

- ・有用形質関連遺伝子等の解析
- ・食肉の食味に関する評価手法の開発
- ・繁殖関連技術の開発・実用化
- ・飼養管理関連技術の開発・実用化



指定種苗の発芽率検査



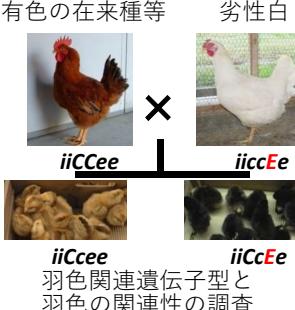
コンバインによる種子の収穫

■ 牛トレーサビリティ業務 ■ 法律に基づく検査

- ・全国の牛のトレーサビリティに必要な個体識別番号や出生異動履歴などの情報の管理、公表
- ・家畜改良増殖法に基づく立入検査
- ・種苗法に基づく指定種苗の集取・検査



耳標に印字された個体識別番号



■ 技術の普及指導 ■ 外部支援

- ・開発された技術の生産現場への普及のための研修会の実施、海外技術協力
- ・国内における家畜伝染性疾病や自然災害発生時等の外部支援・協力



飼料自給率向上のための研修会



緊急時における粗飼料等支援

先輩からの メッセージ

技術専門職員の業務は、家畜の飼養管理、飼料及び種苗の生産等(オペレーター業務を含む)となります。

現在活躍している若手職員から、担当している業務内容や、仕事のやりがいなどのメッセージをお届けします。

十勝牧場 業務第一課

平成31年度採用



岩手牧場 業務課

令和2年度採用



鳥取牧場 業務課

令和2年度採用



Q1.現在の仕事内容について

私は現在、十勝牧場業務第一課肉牛班で主に子牛の飼養管理を行っています。飼養管理の内容は哺乳を初め、代用乳の給与量の調整、牛房の清掃等、多岐に渡ります。また、その中で大事なことは毎日、牛の様子を観察し、体調不良等を早期発見することです。子牛期の発育は後々の発育に大きく関わるので、丁寧な対応が求められます。

Q2.家畜改良センターを選んだ理由

私は、幼いころから動物が好きで動物科学科がある高校に入学しました。そこで、畜産動物である牛に関わるようになり、将来は牛に関わる仕事がしたいと思っていたところ家畜改良センターのことを知り、ここなら自分が持っている知識を生かすことができると思ったほか、より詳しい知識を身につけることができると思い選びました。

Q1.現在の仕事内容について

ホルスタイン種の飼養管理を行っている家畜グループでは、搾乳・分娩、飼料・機械、繁殖・削蹄、哺育・育成、総括の5班で構成されています。私は搾乳・分娩班に所属しており、主な業務内容は、生乳を出荷している牛の体調管理や搾乳です。ヘリングボーンパーラーで搾乳を行なながら、前搾りでの乳房炎や血乳、傷の確認、跛行がないかなどに気を配り、約260頭の搾乳を行っています。

Q2.家畜改良センターを選んだ理由

幼いころから動物が好きで、父が勤めていた牧場によく手伝いに行っていました。その影響もあり、高校は畜産で有名な農業高校に進学し、そこで家畜の飼養管理を実習や授業を通して学びました。一般の農家に就職しようと思っていましたが「経験は移動した距離に比例する」という先生の言葉に共感し、全国転勤で自分がやってきたことが生かせる家畜改良センターを選択しました。

Q1.現在の仕事内容について

牧場では、種雄牛、成雌牛、親子飼育、育成牛、人工哺育の牛舎があり、私はその中でも、哺乳ロボットを用いた人工哺育をする牛舎での業務を主に担当しています。私の仕事は、生まれたばかりの小さな子牛にミルクを与えて、市場に出荷できる大きさまで飼育することです。責任のある仕事ですが、先輩職員や上司からのサポートも手厚く、安心して業務を行うことができます。

Q2.仕事のやりがいについて

私は主にロボット牛舎を担当しているのですが、令和三年度の春より繁殖業務を兼任することになりました。就職した頃は覚えることがいっぱいで、子牛をよく見ることができなかつたのですが、仕事もある程度覚えた頃、ロボット牛舎でかわいがっていた子牛が、牧場に残る雌牛として選ばれ、自分が人工授精した雌牛が、次回の分娩時期には母牛として子牛を産むことになっています。子牛の成長を最後まで見守れるところが大きなやりがいとなっています。



最新情報・詳細はホームページをご覧ください <http://www.nlbc.go.jp/saiyo/>

[見学申込み・お問合せ先]

〒961-8511

福島県西白河郡西郷村大字小田倉字小田倉原1番地

独立行政法人 家畜改良センター 総務部人事課 TEL: 0248-25-2759 (直通)